

VIUUM
MIDDLE

ホルトス

用ひやうれ傳

○さゆ○ささるゆ○さやうがゆ
此ホルトスに用ひやうれ傳
効果あるものなり

三千百番

△朝三粒△昼三粒△夜三粒 昼夜怠なく十指用ると廻と定む。則上包大能書願以宿忘
何れも重き二度五粒用但小兒老人利方應ト見合少令用也。右の通
病の輕き重き隨ひ用いて大便ゆる小便濁る茶相應るなり。又症よりて
下腹少痛事なげた強いも氣はすれ皆是ホルトスの効能頭
所なり。在れど用ひても其驗なきは弥病根深し心得益茶を増用まば大へん
ゆる小便濁るを病去行とまば老病又懷妊ともいさう氣づふ事あり

△天能書一奉る諸症多く發るなり。又四季の代め大にやるとなり。怪きは五六
重き十粒余も度用也。忽ち胸を開き痰を治め、留飲を止し、積塊を解、連々大便
とて後、怪重隨ひ用也。又痰留飲積氣の持病なり。此とて全快せ其後
常々持茶服と諸病なり。又捨置と暑寒又湿とけ病再び
此より心得置。尤も大便ゆるも多年服用する時大便ゆるは即氣
味づし小便常よりは是は病除行かれ心を付て効能のまじきなり

△此藥病怪きは半廻り又廻りて全快とるなり。市に病ありて其まう合は治
とて中途も茶とまば廻り廻り續く病の深きは用也。全快とるなり。教
は近くなり。蘭人常雞鹿の類を食物に大禮に牛を割て、郷食を以て身と
勞せ、肉食と酒又厚茶も痰留飲積氣と病を曾てたれを
則此ホルトスを持茶服するの徳なり。日本の人斯く肉食せ身命を保つべし

△喘息勞咳氣腫脹滿膈症の類元これ痰飲の留滯なり。ありまう今
此ホルトスを用いて根をさう令はこれの症は六じき難治の症なり。三三
半の半季二年、病よりて八年をさう用也。次第病根を退け治するのホルトス
の妙なり。法病とも年久き病茶用とる半途より茶とるが却病跡なり
根を断るは病者より弁服茶是らて茶の奇効をさうむるなり。これ

△壹廻り今
百五十粒入 價銀大 大包七粒入 正銀 中包三粒入 正銀 小包十六粒入 正銀 壹
根元長崎觀生堂藥製 諸國取引所 大橋喜兵衛

根元長崎觀生堂藥製 諸國取引所 大橋喜兵衛